

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)駒重則様店舗マンション新築工	階数	地上9F
建設地	京都府木津川市	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	55 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2009年4月 竣工	評価の実施日	2009年8月11日
敷地面積	554 m ²	作成者	藤嶋 央子
建築面積	303 m ²	確認日	2009年8月11日
延床面積	2,197 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
駅や病院等が近く生活環境に適した立地を生かし単身者だけでなくファミリーも暮らせるような間取りや外観を形成できるよう考慮した。	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 住戸間の隔壁にDr-45の性能を確保出来るシステムの壁を形成した。	Q2 サービス性能 各住戸で電話、インターネットが出来る環境にした。また、居室の天井高さを2.3m以上確保出来るよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に植栽を計画し無機質な建物にならないよう配慮し、周辺との調和を図るため周辺環境に似合う外壁の色を採用した。	LR1 エネルギー 各住戸、採光・通風に関して建築基準法を満たすような計画をした。
LR2 資源・マテリアル 有害な化学物質が発生する材料を採用していない。	LR2 資源・マテリアル 有害な化学物質が発生する材料を採用していない。
LR3 敷地外環境 雨水排水等に関して行政指導のもと規定範囲内とする計画にした。 交通については、生活の中心となるであろう駐輪施設の確保を考慮した。	LR3 敷地外環境 雨水排水等に関して行政指導のもと規定範囲内とする計画にした。 交通については、生活の中心となるであろう駐輪施設の確保を考慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい